

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：32618

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H01231

研究課題名（和文）江戸後期の文化・芸能におけるパトロネージュ構造の解明：吉原を中心に

研究課題名（英文）Study on patronage structure for culture and public entertainment of Yoshiwara in the late Edo period

研究代表者

日比谷 孟俊（HIBIYA, Taketoshi）

実践女子大学・研究推進機構・研究員

研究者番号：60347276

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,100,000円

研究成果の概要（和文）：パトロン入銀により制作された浮世絵は、用紙も厚く色材にも特殊なものが利用されていることを、三代歌川豊国筆「錦昇堂版役者大首絵」を例に解明した。声曲の教授法を江戸と上方で比較すると、江戸では吉原の男芸者、上方では盲目の検校が担ったことが解明できた。吉原の花魁を描く縮緬絵の制作法について検討した。絵の中で直交する2方向から圧縮することにより、等方的に縮められることを顕微鏡観察から明らかにした。明治開化期にパトロンの手により刊行された、日本で最初の和独辞書『和獨對譯字林』が日本人のための辞書であることが明らかになった。校訂者をLehmannとした際の手紙から出版の経緯が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

パトロンによって入銀された浮世絵版画が、どれだけ贅沢なものかについてはこれまで具体的に解明されていなかった。千葉市美術館蔵の「錦昇堂版役者大首絵」を例に、用紙および色材について明らかにすることができ、浮世絵研究分野に大きく資することができた。江戸時代の声曲について、江戸と上方における受容の違いを、互いに比較することにより明確化した。明治期の縮緬絵は、安直に作成され輸出されたものと理解されていた。しかし、幕末に作成された縮緬絵は極めて精緻に作成され、芸術的にも価値が高いことを示すことができた。明治の開化期に出版された日本で最初の和独辞書『和獨對譯字林』について、書誌学的見地からの研究に着手した。

研究成果の概要（英文）：For woodblock prints showing popular kabuki actors drawn by Kunisada III issued under the financial support from the patron, high-quality papers and special colorants were used. Character of classical music of Edo-era was compared between Edo and Kamigata (Kyoto and Osaka). Male geishas were instructors for teaching music to courtesans in particular in Edo, whereas a blind musician taught them koto music. A preparation process for crepon prints (chirimen-e) was studied through observing printed lines of wrinkles carefully by a digital microscope. Original prints can be shrunk isotropically based on the coordinates perpendicular each other. In 1777 the first Japanese-German dictionary was published by wealthy farmers in suburb of Tokyo. It was found that movable types for Japanese were prepared in Japan, whereas that for Roman letters were supposed to be imported from the American Presbyterian Mission Press in Shanghai. The dictionary was printed and bound into a book in Japan.

研究分野：江戸文化

キーワード：吉原 浮世絵 声曲 上方 男芸者 検校 縮緬絵 和獨對譯字林

1. 研究開始当初の背景

江戸文化はシステム・オブ・システムズとして成り立っている。すなわち、様々なサブシステムから成り立っており、どれ一つを除いても全体の理解にはつながらない。明治開化期における「芸娼妓廃令」、「演劇改良運動」、「音楽改良運動」、「出版における活字印刷の導入」等により、吉原、演劇、音曲、出版など、江戸の要素文化の連携が断ち切られる状態が生じた。明治維新から60年後の昭和初め頃までは、三田村鳶魚のような好事家が江戸の文化を調べ書物にして記録してきた。しかし、そこからさらに100年近く経過すると、江戸の文化をシステム・オブ・システムズとして理解する視点は全く失われ、個々の文化や、芝居や声曲などの芸能、そして芸術は、お互いに関連することなく、縦割りに享受されるようになった。

特に、吉原は江戸のあらゆる文化の中心であり、サロンとして人と人とを繋ぐ場所であった。しかし、吉原の存在そのものが時代の流れの中で否定されてきたこともあり、江戸以来の様々な文化、芸能、芸術は互いに脈絡なく、糸の切れた凧のように、力を失いながら認識されるようになってきた。

江戸文化を支えてきたのはパトロンであるが、パトロンには匿名性があり、誰がどのような文化を推進したのか、今では分からなくなりつつある。

2. 研究の目的

本研究では、江戸文化をジャンルとパトロンの階層との組み合わせによるマトリクスとして捉え、それぞれの組み合わせにおいてどのような活動があったかを記述することを目的とした。

3. 研究の方法

(1)江戸の錦絵に関しては、神田塗師町で金物屋を営んだ紀伊国屋の八代目三谷長三郎が入銀して作られたとされる幕末の役者大首絵について、東京文化財研究所の大和あすかアソシエイトフェローと共に、千葉市美術館の協力を得て、用紙の質や高価なものが含まれると予想される色材について調査した。

(2)江戸後期から幕末に、既存の錦絵を縮めて作られた「縮緬絵」の制作法について、幾何学および座標変換の概念を用い、縮緬絵シンポジウムを組織して解析を試みた。

(3)上記の錦絵に関わる研究の一環として、錦絵をはじめ日本古来の和紙に充填剤として用いられているコメ澱粉の研出を容易に行うために、コメ澱粉粒の複屈折を利用し、偏光を用いて検出する方法を検討した。

(4)江戸と上方における声曲文化を比較すべく静岡大学長谷川慎教授と共に、上方と江戸の花街における声曲の受容と教授の相違を、一次資料としての吉原細見と文献資料から検討した。

(5)明治10年(1877)に足立の豪農によって、日本で最初に刊行された和独辞書『和獨對譯字林』について、東洋大学木村一教授との共同で辞書学の視点からの研究を実施し、また、発行者の家に残されていた手紙や書類の調査から出版の経緯の調査を、足立区立郷土博物館多田学芸員を協力者として実施した。さらに和装本から洋装本に変化する、明治初期の出版物として辞書の用紙、活字および製本の方法などについて、東洋文庫の徐小潔博士と共に、近代書誌学の視点から研究を進めた。

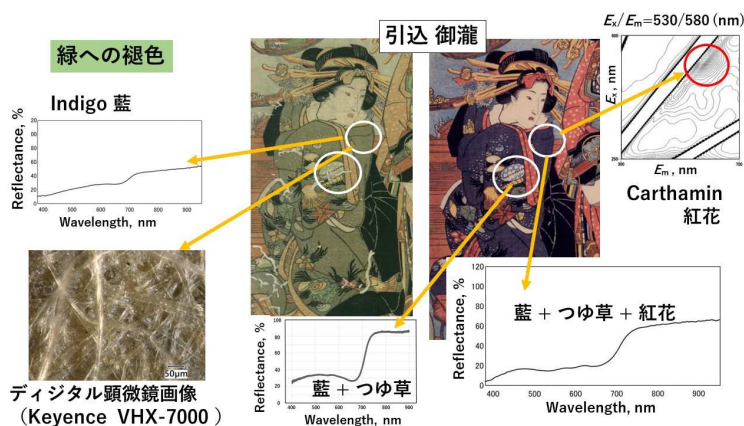


図1 錦絵「新吉原江戸町一丁目和泉屋平左衛門花川戸仮宅之図」における紫の褪色.

4. 研究成果

(1) 浮世絵版画（錦絵）について、パトロンによる入銀が想定されるものについて、丁寧な調査をおこなった。

文政8年(1825)に江戸吉原江戸町一丁目和泉屋平左衛門（二代目）が初代夫妻を顕彰し、見世の全盛を宣伝する錦絵「新吉原江戸町一丁目和泉屋平左衛門花川戸仮宅之図」五枚続きにおいて、保存の良い版と褪色の著しい版とを比較することから、紫の調色の方法により「変色のメカニズム」の違いを確認できた。

図1の右図において、「御瀧」の着物は反射スペクトル分析からは、紅花による赤に、藍とつゆ草による青を混ぜて作られていると判断できる。左図の「御瀧」の着物は緑色に褪色し、藍のスペクトルパターンのみが観察できる。このことから、左の御瀧の着物においては、つゆ草による青と紅花による赤が褪色し、光に強い藍と紅花に含まれる黄色成分により緑に見える。

紫（あずき色）の赤茶色への変化

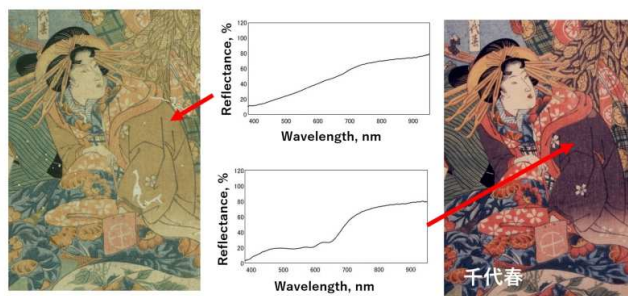


図2 「新吉原江戸町一丁目和泉屋平左衛門花川戸仮宅之図」における、千代春の着物の褪色。

図2は同じ揃い物にある「千代春」である。右側の「千代春」の着物は薄く赤で摺り、その後、つゆ草と紅花で作られた紫をぼかして摺ったものと想像される（スペクトル参照）。しかし、紫の成分であるつゆ草の青が褪色したことが、スペクトル分析から認められ、絵は赤茶色に変色したと理解される。

図3は、千葉市美術館所蔵の、錦昇堂(恵比寿屋庄七)から板行された、三代歌川豊国による役者大首絵「六代目市川団蔵の加古川本蔵」である。紀伊国屋の八代目三谷長三郎が入銀したことは、書類が残されているとおりである。①通常の錦絵よりも厚手の紙を使う、②この絵の例では赤に紅花と水銀朱を混ぜて使う、③紫にフクシンを使うなど、高価な色材が使われている。

(2)江戸吉原の遊女絵を調査する段階で、「江戸町二丁目和泉屋鶴の雄禿小蝶」を長さで60%程度に縮めた縮緬絵が発見された(図4)。平板な錦絵を縮緬絵に加工することにより、絵が単に縮ま



図3 千葉市美術館所蔵錦昇堂板行、三代歌川豊国による役者大首絵「六代目市川団蔵の加古川本蔵」。



図4 縮緬絵「歌川芳幾筆「江戸町二丁目和泉屋鶴の雄禿小蝶」」

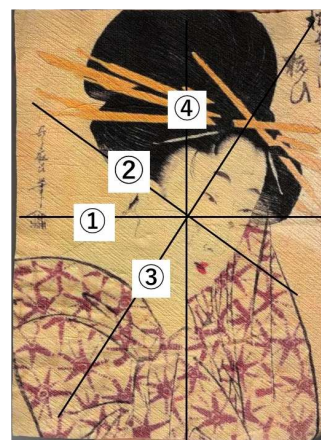


図5 絵を等方的に圧縮するための条件。

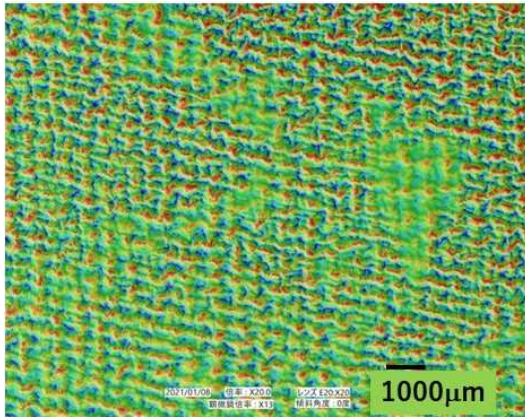


図 6 縮緬絵になった遊女絵の着物の部分のオプトセム・モードによる観察. 微細な凹凸が列状に並んでいる. 盛り上った部分は赤く, 凹んで部分は青く見える.

か, あるいは, 圧縮と直交する方向で伸びが生じないかを調べた結果を図 7 に示す. 対角線 2-4

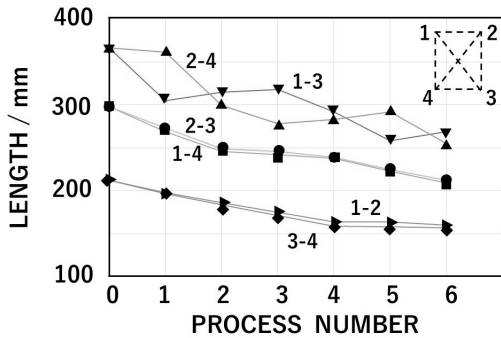


図 7 圧縮を 6 回行った場合の 4 点間の距離. 対角線を利用した圧縮を初期に行うと, 後の工程のために残留応力が解放され距離

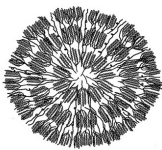


図 8 コメ澱粉結晶模型.

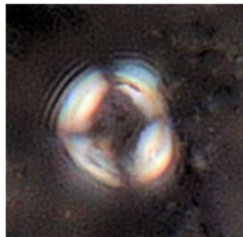


図 9 偏光で観察されるコメ澱粉の消光十字.



図 10 文化・文政期に, 吉原の男芸者であった山彦新次郎父子 (一中節では菅野序遊父子) などに, 河東節, 一中節, 山田流箏曲を仕込まれた, 高級遊女 (花魁).

るだけではなく, 縮緬布のように柔らかくなり, 表面に微細な凹凸ができることにより絵に質感と輝きを与え, 見る方向により異なった印象を与える. 縮緬絵の研究は当初の計画になかったが, これまで, 縮緬絵の研究は殆どなされていないことから, 研究計画に取り入れることとした.

絵を圧縮するために皺 (シボ) 列を導入する必要がある. 互いに直交する方向からの圧縮により, 絵は等方的に圧縮される. 長・短辺に平行な方向からの圧縮 (図 5 における①および④) だけではなく, 対角線と平行 ③ および垂直 ② の方向からの圧縮が行なわれていることが, デジタル顕微鏡による観察と実験から明らかになった.

皺の拡大写真を図 6 に示す. 縮緬絵を作成するには, 複数の皺 (シボ) 列を導入して圧縮してゆくことが必要である. 1 回の操作でどれだけ圧縮されるのか, また, 単純に収縮するのか, あるいは, 圧縮と直交する方向で伸びが生じないかを調べた結果を図 7 に示す. 対角線 2-4 の圧縮を行うと, 1-3 間の距離が伸びることを見出した. また, この場合には 1 回の圧縮により元の大きさから 94.7% までに縮むことが分かった. これを 6 回繰り返すと, 圧力にも依存するが 72% まで縮むことが分かった.

(3) 浮世絵などの江戸古来の和紙にコメ澱粉粒が添加されていることが, 報告されている. しかし, コメ澱粉粒の識別には経験と勘が必要であった. コメ澱粉粒が複屈折性を示し, 光学的には一軸性結晶であることに着目して, 偏光を用いて消光十字の存在を確認してコメ澱粉であることを容易に識別する方法を開発した.

図 8 および図 9 に, コメ澱粉結晶の模型および偏光で観察したコメ澱粉における消光十字を示す. 考古学などでは, 出土した澱粉粒を透過偏光観察により同定がされているが, 紙に抄き込まれたコメ澱粉の場合, 背面からの透過光を用いると, 入射直線偏光が散乱され, 偏光十字の観察が不可能になる. よって, 同軸落射による偏光観察が必須となる. 鋭敏色板を利用すると, さらに観察が容易になることが分かった.

(4) 上方と江戸との声曲の特徴を比較した. 上方の曲 (地唄) は, はんなりしていることが特徴であるが, 江戸の曲にはアップテンポのものが多く. 上方は商売の土地であり, 豪商が妓楼のお抱えとなっている場合もあるが, 江戸は政治の都市であり, この風潮はみられず, 江戸詰め武士の情報交換の場所となっている. 上方の花街で声曲の教授を行った盲目の検校であった. 一方, 江戸では歌舞伎の地方 (じかた) や, 吉原俄や神田祭, 山王祭礼の声曲を仕切った吉原の男芸者がこの任にあたった. 図 10 は高度の技術を持っていた吉原の花魁による三曲合奏である.



図 11 溪斎英泉画『拍子逢妓 くらべ牡丹 玉屋内小故式部』文政 7 年(1824). 近江屋平八板.

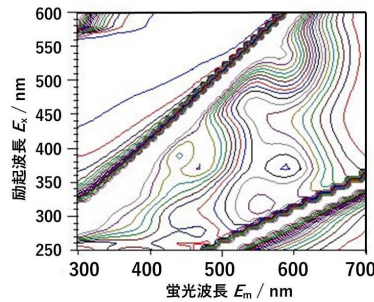


図 12 溪斎英泉画『拍子逢妓 くらべ牡丹 玉屋内小式部』文政 7 年(1824).近江屋平八板.

この時代には、パトロンが入銀したと想像される、一中節を扱った絵が多数作成されている。図 11 に一例を示す。この絵の紫の袖の部分を 3 次元蛍光分光分析した結果を図 12 に示す。紫を混色で作るにあたり、紅が使われたことが図 12 より分かる。

(5)足立区立郷土博物館多田文夫学芸員と共同で、江戸初期に草切百姓として新田開発にあたった旧家に保存されている、美術品の調査を行った。調査の結果、様々な美術品の存在が明らかになった。その成果の一部は、2020 年 11 月から 2021 年 2 月にかけて、足立区立郷土博物館において開催された展覧会「文化遺産調査特別展 名家のかがやき - 近郊郷土の美と文芸 -」において公開された。展示品の例を図 13 に示す。



図 13 幕府御用絵師狩野則信が描いた日比谷美津像。明治元年(1868).

併せて足立小右衛門新田の日比谷健次郎と二郷半領の加藤翠溪により、明治 10 年(1877)に日本で初めて刊行された、和独辞書『和獨對譯字林』(図 14A および 14B)の研究を進めた。この辞書については、辞書学的視点からは研究が進んでおり、語順を alphabetical に並べるのではなく、イロハ順にしている点が、同時期のヘボンによる『和英語林集成』などと比べるとユニークな点であり、日本人が作った日本人のための和独辞書と位置付けられている。

この辞書は京都在住のドイツ人 Rudolph Lehmann を校訂者として、斎田訥於、那波大吉、国司平六をが著術者となり作成されている。しかしながら、これらの人物が如何なる者かについては不明であった。東洋大学木村一教授の調査から、斎田と那波は兵庫県飾磨藩士であり、国司は長州藩士であることが判明した。Rudolph Lehmann は戊辰戦争に際し、奥羽列藩同盟に銃砲を売った、ドイツの武器商人 Carl Lehmann の弟であり、京都の欧学舎においてドイツ語を教え、大阪に造船所を開設し、京都における製紙工場 Papierfabrik の開設とも関わったことが調査から分かってきた。

また、この辞書の著作権を得るために内務省に提出した文書の控え、校訂者を探すために加藤翠溪と日比谷健次郎が京都に出張したおりに、健次郎の妻順が夫健次郎と父翠溪にあてた手紙、ならびに売り上げに関する書類も残されていた。

しかしながら、書誌学的観点からの研究は進んでおらず、特に、印刷用紙、活字、印刷機械、印刷場所、製本などに関して、なお、未解明な

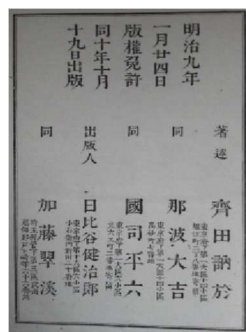
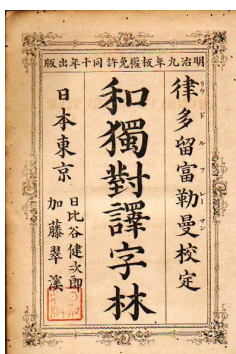


図 14 日比谷健次郎および加藤翠溪により、明治 10 年 (1877) に出版された、日本で最初の和独辞書『和獨對譯字林』。A 表紙, B 奥付.

点が残されている。この時期は和装本から洋装本への切り替えの時期であり、この時期の出版物として近代書誌学の観点から貴重な資料であり、さらなる研究の遂行が望まれる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計36件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 日比谷孟俊	4. 巻 115
2. 論文標題 酒井抱一と吉原 余香	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 郷土研究誌 みなみ	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日比谷孟俊	4. 巻 117
2. 論文標題 知多出身の妓楼「玉屋弥八」と天保の改革	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 郷土研究誌 みなみ	6. 最初と最後の頁 19-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日比谷孟俊	4. 巻 116
2. 論文標題 江ノ島の鳥居を寄進した知多出身の吉原関係者	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 郷土研究誌 みなみ	6. 最初と最後の頁 53-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日比谷孟俊	4. 巻 661
2. 論文標題 葛西城攻略の論功行賞	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 足立史談	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日比谷孟俊	4. 巻 114
2. 論文標題 姿海老屋の新造出し - 尾張系妓楼での採用と出世 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 郷土研究誌 みなみ	6. 最初と最後の頁 53-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日比谷孟俊	4. 巻 113
2. 論文標題 江戸の門付け芸 - 尾張万歳、狐舞、大黒舞 吉原から歌舞伎へ -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 郷土研究誌 みなみ	6. 最初と最後の頁 55-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津田真弓	4. 巻 57
2. 論文標題 『抱瘡除』と『寿福請取帳』翻刻と解題 - 病気見舞い本における抱瘡神と麻疹神 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 『斯道文庫論集』	6. 最初と最後の頁 405-433
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 津田真弓	4. 巻 71(7)
2. 論文標題 式亭三馬 『稗史億説年代記』と『浮世絵類考』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 2-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川慎, 日比谷孟俊	4. 巻 42
2. 論文標題 遊里における音曲の受容に関する東西比較 - 上方の当道と江戸の男芸者 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 実践女子大学文芸資料研究所『年報』	6. 最初と最後の頁 137-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34388/1157.00002448	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大和あすか	4. 巻 66
2. 論文標題 浮世絵版画における天然および人造石黄の使用事例と流通状況に関する一考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文化財保存修復学会誌	6. 最初と最後の頁 11-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大和あすか, 塚田全彦, 荒井経	4. 巻 18
2. 論文標題 有機顔料の変褪色挙動と補彩材料としての有効性の検証 - 平等院鳳凰堂復元扉絵を対象に -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鳳翔学叢	6. 最初と最後の頁 211-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 多田文夫	4. 巻 661
2. 論文標題 大久保家資料の紹介 紙屋の地漉紙問屋株 その1	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 足立史談	6. 最初と最後の頁 3-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 多田文夫	4. 巻 660
2. 論文標題 大久保家資料の紹介 千住宿400年の始まりを伝える	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 足立史談	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 多田文夫	4. 巻 658
2. 論文標題 ルドルフ・レーマンに出会う旅 レーマン兄弟と京都	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 足立史談	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 多田文夫	4. 巻 651
2. 論文標題 ルドルフ・レーマンに出会う旅 日比谷健次郎の京都滞在	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 足立史談	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日比谷孟俊	4. 巻 111
2. 論文標題 新吉原に見番制度を作った知多の大黒屋庄六と「碁太平記白石噺」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 郷土研究誌 みなみ	6. 最初と最後の頁 72-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 悟	4. 巻 101
2. 論文標題 曲亭馬琴「朝顔花合」報条	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 実践国文学	6. 最初と最後の頁 32-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34388/1157.00002327	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 悟	4. 巻 100
2. 論文標題 『風流目付紋所 并二かわり六じくわん入り』 について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 実践国文学	6. 最初と最後の頁 60-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34388/1157.00002306	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長谷川慎, 志民一成, 櫻井千晶	4. 巻 32
2. 論文標題 音楽授業における歌唱モデル構築のための伝統的な歌唱を稽古する子供の歌い方の分析(2)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 静岡大学教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 32-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00028688	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大和あすか	4. 巻 230
2. 論文標題 錦絵の緑・紫の混色表現における青色色材の変遷について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 179-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大和あすか, 荒井経	4. 巻 17
2. 論文標題 鳳凰堂昭和期復元扉絵「中品上生図」右扉の下地に関する科学調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鳳翔学叢	6. 最初と最後の頁 264-270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤信博, 村上心, 藤村香穂	4. 巻 53
2. 論文標題 染色型紙の価値の再検討と西欧の染色型紙受容について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 椋山女学園大学研究論集: 人文科学篇・社会科学篇・自然科学篇	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20557/00003314	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 日比谷孟俊	4. 巻 109
2. 論文標題 内田佐七郎に残る江戸吉原「松葉屋抱代々山」の扇面自筆	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 郷土研究誌 みなみ	6. 最初と最後の頁 59-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤悟	4. 巻 53
2. 論文標題 大津絵節と合巻	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大津絵	6. 最初と最後の頁 69-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津田眞弓, 布施倫英, 小長光芳子, Kentta Laura, Heiskanen Tetsu, Repo Santtu	4. 巻 35
2. 論文標題 フィンランド国立図書館蔵合巻『仮名手本忠臣蔵』調査報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要『人文科学』	6. 最初と最後の頁 221-244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 津田眞弓	4. 巻 229
2. 論文標題 みちのくが未知の世界に出会う 「文化露寇」の衝撃を考える (令和2年度冬季大会・シンポジウム)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文学・語学	6. 最初と最後の頁 111-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34492/bungakugogaku.229.0_111	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 津田眞弓, 康志賢, MORETTI Laura, EGOVA Nathalia, BILLS Joseph	4. 巻 38
2. 論文標題 式亭三馬店双六「販式亭まさる双六」: 翻刻と解題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要『人文科学』	6. 最初と最後の頁 145 (70) -180 (35)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 津田眞弓	4. 巻 7
2. 論文標題 疱瘡絵本『 疱瘡請合 軽口噺』考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 太平餘興	6. 最初と最後の頁 15-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤信博	4. 巻 18
2. 論文標題 聖書に記される植物 - 表象とその思想	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 椋山女学園大学紀要 『言語と表現』	6. 最初と最後の頁 5-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村一	4. 巻 22
2. 論文標題 常用語の分水嶺 『漢英対照いろは辞典』の同一見出し内の複数漢字表記	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 近代語研究	6. 最初と最後の頁 23-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日比谷孟俊	4. 巻 107
2. 論文標題 江戸新吉原における尾張出身者 - 何故、知多と吉原なのか -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 郷土研究誌 みなみ	6. 最初と最後の頁 36-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日比谷孟俊	4. 巻 108
2. 論文標題 尾張出身妓楼における遊女絵の刊行 「契情道中双るく見立吉原五十三対」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 郷土研究誌 みなみ	6. 最初と最後の頁 30-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤悟, 八木正白, 藤田達生	4. 巻 39
2. 論文標題 古筆手鑑『筆陣』所収羽柴秀吉書状 (調査報告 114)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 実践女子大学文芸資料研究所『年報』	6. 最初と最後の頁 159-187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34388/1157.00002119	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤悟	4. 巻 179
2. 論文標題 書籍紹介 鈴木重三『絵本と浮世絵 : 江戸出版文化の考察』改訂増補版 : 鈴木重三先生のお仕事 : 桃李もの言わざれども	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 浮世絵芸術	6. 最初と最後の頁 64-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津田真弓	4. 巻 36
2. 論文標題 山東京山自筆草稿『孝行雀心之竹馬』 翻刻と解説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本女子大学大学院の会『会誌』	6. 最初と最後の頁 32-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白戸満喜子	4. 巻 39
2. 論文標題 『源氏物語』古筆切の料紙観察 (第1報)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 実践女子大学文芸資料研究所『年報』	6. 最初と最後の頁 215-233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34388/1157.00002121	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計54件（うち招待講演 14件 / うち国際学会 15件）

1. 発表者名 日比谷孟俊
2. 発表標題 江戸吉原の文化を支えた知多の人々
3. 学会等名 南知多郷土研究会講演会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 寺島海，日比谷孟俊，貴田啓子
2. 発表標題 江戸中期の日本画に使用されたスマートの蛍光X線分析法による組成解析
3. 学会等名 文化財保存修復学会第45回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大和あすか，日比谷孟俊，田辺昌子，山内れい，高橋志歩
2. 発表標題 江戸後期のパトロネージュの構造解明を目的とした三代歌川豊国「錦昇堂版役者大首絵」の技法材料調査
3. 学会等名 文化財保存修復学会第45回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 日比谷孟俊
2. 発表標題 江戸中期～後期のミスター吉原・酒井抱一
3. 学会等名 江戸伝統文化推進燈虹塾ハイブリッドセミナー（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 日比谷孟俊
2. 発表標題 江戸中期～後期のミスター吉原・酒井抱一 Part
3. 学会等名 江戸伝統文化推進燈虹塾ハイブリッドセミナー（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 日比谷孟俊，徐 小潔
2. 発表標題 Keszueelt Japan az elso japan-nemet sztar? 和獨對譯字林はどう作られたか？
3. 学会等名 リスト・ハンガリー文化センター 講演会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 日比谷孟俊，堀木茂
2. 発表標題 Scientific Study on Preparation of Crepon Prints by Digital Microscope - デジタル顕微鏡による縮緬絵（製作工程）の科学研究
3. 学会等名 縮緬絵シンポジウム Crepon Symposium（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 日比谷孟俊
2. 発表標題 新吉原と江の島の知られざる関係 - 江之島入口『青銅鳥居』
3. 学会等名 江戸伝統文化推進燈虹塾ハイブリッドセミナー（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 日比谷孟俊, 堀木茂, 大和あすか, 一宮八重, 川上宏, 山本親
2. 発表標題 縮緬絵の制作法に関する考察 - 皺の入れ方の幾何学的取り扱い -
3. 学会等名 文化財保存修復学会第46回大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 荒井経, 大和あすか, 須澤芽生, 鈴木七実, 山口美波, 木下悠
2. 発表標題 静岡県立美術館所蔵 伊藤若冲筆《樹花鳥獸図屏風》の描画手順
3. 学会等名 文化財保存修復学会第45回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大和あすか
2. 発表標題 Comparison of chirimen-e and original nishiki-e by color material analysis
3. 学会等名 縮緬絵シンポジウム Crepon Symposium (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大和あすか
2. 発表標題 『釈迦八相倭文庫』の表紙における石黄
3. 学会等名 国文学研究資料館 × 実践女子大学文芸資料研究所共催国際シンポジウム 草双紙の近未来 - 文理融合研究の成果 - 第2回 (招待講演) (国際学会) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大和あすか
2. 発表標題 錦絵における鉛丹の変色技法の検証
3. 学会等名 『第六回公益財団法人芳泉文化財団 文化財保存学日本画・彫刻研究発表展 美しさの新機軸 ～日本画・彫刻 過去から未来へ～』
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐藤悟
2. 発表標題 Characterization of Nineteenth-Century Novel Papers
3. 学会等名 The Digital Turn in Early Modern Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤悟, 永井とも子
2. 発表標題 『源氏物語絵巻』に見る裳の形状
3. 学会等名 第13回絵入本ワークショップ (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤悟
2. 発表標題 女房装束の変遷 平安期女房装束の復元を通じて
3. 学会等名 The Revival of the Classics (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐藤悟
2. 発表標題 浮世絵と社会情勢（パネル討論）浮世絵にみる出版規制の諸相
3. 学会等名 第28回国際浮世絵学会秋季大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 津田真弓
2. 発表標題 Smallpox Illustrated Books and Their Publication : What We Can Learn From Jippensha Ikku ' s Karukuchi Banashi
3. 学会等名 Healing the People: Popularizing and Printing Medicine in Edo Japan
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 津田真弓
2. 発表標題 江戸の病氣見舞い本にみる疱瘡神と麻疹神 歌川国芳「鎮西八郎為朝・疱瘡神」図を視野に
3. 学会等名 日本近世文学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長谷川慎
2. 発表標題 地歌『芦刈』
3. 学会等名 第14回やなみ会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長谷川慎
2. 発表標題 名曲を訪ねて< >
3. 学会等名 第10回日本の響
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長谷川慎, 梅辻理恵, 戸波有香子, 小池典子
2. 発表標題 箏組歌『梅ヶ枝』
3. 学会等名 第20回箏曲組歌研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長谷川慎
2. 発表標題 鶴山勾当作曲『ゆかりの月』
3. 学会等名 第15回やなみ会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長谷川慎, 梅辻理恵
2. 発表標題 地歌『竹生島』
3. 学会等名 井上流レクチャー
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長谷川慎, 梅辻理恵, 小池典子, 戸波有香子
2. 発表標題 箏組歌『四季の友』
3. 学会等名 第21回箏曲組歌研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 大和あすか, 久下有貴
2. 発表標題 襖絵ならびに環境の調査
3. 学会等名 偕楽園開園180年記念シンポジウム偕楽園好文亭襖絵 - 過去から現在、そして未来へ - (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 下松裕介, 小柏典華, 大和あすか
2. 発表標題 清水家所蔵史料にみる神輿関連史料について
3. 学会等名 日本建築学会北海道大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小柏典華, 大和あすか, 松下裕介
2. 発表標題 「八幡神社本殿古図」の史的価値 その1 鯰口型虹梁の導入
3. 学会等名 日本建築学会北海道大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 須澤芽生, 大和あすか, 藤岡雅人, 荒井経
2. 発表標題 相国寺蔵重要文化財円山応挙筆《牡丹孔雀図》に使用された青緑色の色材について
3. 学会等名 文化財保存修復学会第44回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大和あすか
2. 発表標題 技法材料調査を中心とした津島版画の制作年代の検証
3. 学会等名 文化財保存修復学会第44回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 日比谷孟俊
2. 発表標題 幕末期における工芸品としての縮緬浮世絵制作工程に関する考察
3. 学会等名 2021年度国際浮世絵学会春季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 日比谷孟俊
2. 発表標題 幕末期の工芸品としての縮緬絵はどのようにつくられたのか - 制作工程の解明と文化の継承
3. 学会等名 第2回ちりめん絵研究会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 日比谷孟俊
2. 発表標題 吉原遊女の教養教育
3. 学会等名 江戸伝統文化推進燈虹塾 オンラインセミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大和あすか，塚田全彦
2. 発表標題 嘉永年間の役者絵に用いられた石黄の分析
3. 学会等名 文化財保存修復学会43回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大和あすか
2. 発表標題 縮緬絵 色材分析結果
3. 学会等名 第2回ちりめん絵研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤信博
2. 発表標題 日本の美・西欧の美 - 比較からみるジャポニスム
3. 学会等名 国際研究集会『知識の伝承・伝達』（ストラスブール大）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 日比谷孟俊
2. 発表標題 江戸町一丁目半籬交和泉屋平左衛門七十年の歴史
3. 学会等名 江戸伝統文化推進燈虹塾セミナー（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 日比谷孟俊，大和あすか，下山進
2. 発表標題 「新吉原江戸町一丁目和泉屋平左衛門花川戸仮宅之圖」の色材分析と開板動機
3. 学会等名 第12回絵入り本ワークショップ（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 日比谷孟俊
2. 発表標題 縮緬絵の制作工程に関する新しい考察 - 紙の塑性変形について -
3. 学会等名 実践女子大学シンポジウム：紙のレンズから見た古典籍
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤悟
2. 発表標題 赤本『女はちの木』について
3. 学会等名 第12回絵入り本ワークショップ（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤悟
2. 発表標題 上紙摺と上製本 - 合巻研究への高精細デジタルマイクロスコープの利用 -
3. 学会等名 国文学研究資料館：第6回日本語の歴史的典籍国際研究集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤悟
2. 発表標題 『修紫田舎源氏』の用紙について - なぜ絶版となったのか -
3. 学会等名 実践女子大学シンポジウム：紙のレンズから見た古典籍
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤悟
2. 発表標題 十九世紀絵本の地域性 - 色摺本と墨摺本 -
3. 学会等名 第23回国際浮世絵学会春季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大和あすか，一宮八重，土屋明日香
2. 発表標題 錦絵における天然および合成石黄の使用事例
3. 学会等名 文化財保存修復学会第42回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒井経典, 大和あすか, 塚田全彦
2. 発表標題 現代東洋絵画におけるチューブ絵具 色名・色相・成分からの評価
3. 学会等名 文化財保存修復学会第42回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 島津美子, 大和あすか
2. 発表標題 狂歌師鶴酒屋乎佐丸収集「摺りもの帖」に見られる彩色材料
3. 学会等名 文化財保存修復学会第42回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大和あすか
2. 発表標題 豪華絵本と摺物に使用された彩色材料
3. 学会等名 第12回絵入本ワークショップ (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木七実, 大和あすか
2. 発表標題 打紙の復元実験 - 平安後期伊勢物語絵巻の想定復元制作を通して -
3. 学会等名 実践女子大学シンポジウム：紙のレンズから見た古典籍
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤信博
2. 発表標題 奈良絵本・古今著聞集（チェルヌスキ美術館蔵）と元禄版本の画像 比較から見る問題点
3. 学会等名 ハイデルベルク大学，椋山女学園大学共同国際シンポジウム「近世日本の絵本、絵巻から読みとる写本・版本文化の狭間」（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木村一
2. 発表標題 啓蒙書の外国語の記述と常用性 『西国立志編』を資料として
3. 学会等名 第19回 漢字文化圏近代語研究会学術大会「東アジア言語における漢字語彙の過去現在と未来」（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木村一
2. 発表標題 『自由之理』における外国語のカタカナ表記の記載方法 外来語への道程
3. 学会等名 鄭州大学漢字文明研究中心/文学院による「漢字文化圏的近代新詞語 材料，概念与翻訳 国際学術研討会」（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 津田真弓
2. 発表標題 みちのくが未知の世界に出会う 「文化露寇」の衝撃を考える
3. 学会等名 全国大学国語国文学会（シンポジウム「未知のものとも出会うとき 文学におけるみちのくの発見」）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤信博
2. 発表標題 古記録に描かれた絵画から室町・江戸を読み解く
3. 学会等名 幸田町教育委員会開催歴史講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤信博
2. 発表標題 絵画資料から飢饉と経済を読み解く
3. 学会等名 パリ アグロ・テック：農業専門大学、基調講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 佐藤悟，江南和幸，澤山茂，大和あすか，岡田至弘，徐小潔，日比谷孟俊，舟見一哉，横井孝，上野英子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 296
3. 書名 紙のレンズがひらく古典籍・絵画の世界 New Aspect of Codicology, under the eyes of the Scientific Analysis of Paper	

1. 著者名 大和あすか	4. 発行年 2024年
2. 出版社 千葉市美術館	5. 総ページ数 220
3. 書名 サムライ、浮世絵師になる！鳥文斎栄之展	

1. 著者名 日比谷孟俊, 大和あすか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 220
3. 書名 資料論がひらく軍記・合戦図の世界 理文融合型資料論と史学・文学の交差	

1. 著者名 大和あすか, 鈴木七実	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 142
3. 書名 書物学第19巻紙のレンズから見た古典籍	

1. 著者名 佐藤悟	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸紅ギャラリー	5. 総ページ数 84
3. 書名 源氏物語：よみがえった女房装束の美	

1. 著者名 木村一, 木村義之, 陳力衛, 山本真吾	4. 発行年 2023年
2. 出版社 武蔵野書院	5. 総ページ数 302
3. 書名 図説日本の辞書100冊	

1. 著者名 沖森卓也, 木村義之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 184
3. 書名 辞書の成り立ち (日本語ライブラリー)	

1. 著者名 沖森卓也	4. 発行年 2021年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 560
3. 書名 日本語文法百科	

1. 著者名 伊藤信博	4. 発行年 2022年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 植物・食物の表象文化学	

1. 著者名 足立区立郷土博物館	4. 発行年 2020年
2. 出版社 足立区立郷土博物館	5. 総ページ数 80
3. 書名 令和二年度文化遺産調査特別展「名家のかがやき - 近郊郷土の美と文芸」	

1. 著者名 久保朝孝	4. 発行年 2021年
2. 出版社 武蔵野書院	5. 総ページ数 720
3. 書名 源氏物語を開く	

1. 著者名 伊藤信博	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 酔いの文化史 - 儀礼から病まで	

1. 著者名 ハルオ・シラネ	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 430
3. 書名 東アジアの自然観 - 東アジアの環境と風俗 -	

1. 著者名 母利司朗	4. 発行年 2020年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 284
3. 書名 和食文芸入門	

1. 著者名 東洋文庫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 200
3. 書名 岩崎文庫の名品 - 叡智と美の輝き -	

1. 著者名 陳力衛	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 224
3. 書名 近代の語彙 (1) 四民平等の時代	

1. 著者名 玉蟲敏子, 多田文夫, 萩原ちとせ, 江村知子, 小林優, 鶴岡明美, 眞田尊光, 加藤ゆずか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 國華社	5. 総ページ数 55
3. 書名 國華1531号	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>本科学研究費基盤B19H01231「江戸後期の文化・芸能におけるパトロネージュ構造の解明：吉原を中心にして」の活動を、研究分担者および研究協力者の活動を中心に紹介する内容の website を構築した。以下の url より紹介。 http://kakenhi-patronage-hibiya.kipplies.jp/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長谷川 慎 (Hasegawa Makoto) (00466971)	静岡大学・教育学部・教授 (13801)	
研究分担者	大和 あすか (Yamato Asuka) (30823752)	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・保存科学研究センター・アソシエイトフェロー (82620)	
研究分担者	津田 真弓 (Tsuda Mayumi) (40390588)	慶應義塾大学・経済学部(日吉)・教授 (32612)	
研究分担者	佐藤 悟 (Sato Satoru) (50178729)	実践女子大学・文学部・教授 (32618)	
研究分担者	木村 一 (Kimura Hajime) (90318303)	東洋大学・文学部・教授 (32663)	
研究分担者	山本 親 (Yamamoto Chikashi) (40125109)	名古屋学院大学・スポーツ健康学部・教授 (33912)	2023年度のみ参加
研究分担者	伊藤 信博 (Ito Nobuhiro) (90345843)	椋山女学園大学・国際コミュニケーション学部・教授 (33906)	2019年度から2022年度まで
研究分担者	白戸 満喜子 (Shiroto Makiko) (50814042)	実践女子大学・研究推進機構・研究員 (32618)	2019年度のみ参加

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	田辺 昌子 (Tanabe Masako)	千葉市美術館	
研究協力者	多田 文夫 (Tada Fumio)	足立区立郷土博物館	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Crepon Symposium 縮緬絵シンポジウム	開催年 2023年～2023年
--------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
オランダ	Vincent van Gogh Museum		